



ご存知ですか？

肺がんのこと

～肺がんの臨床医からのメッセージ～

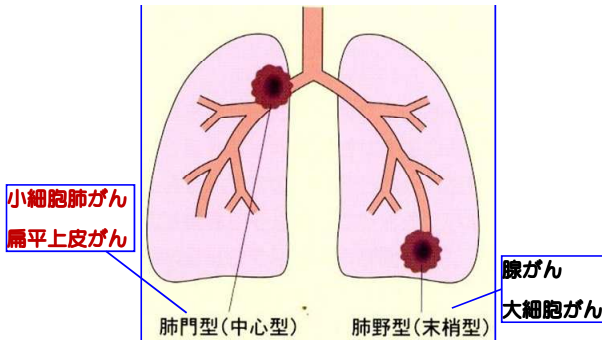


だな たけし
産業医 田名 毅

(首里城下町クリニック)

1. 肺がんとは？

① 肺がんとは、**気管・気管支・肺胞**にできるがんのこと



※肺の入り口の気管支にできやすい(中心型)

小細胞がん、扁平上皮がん

※肺の奥の方にできやすい(末しょう型)

腺がん、大細胞がん

できる場所によって癌の細胞の種類が異なります。小細胞がんは進行が早く、扁平上皮がん・大細胞がんは比較的速い、腺がんは進行が人によって遅いこともあるようです。

② 肺がんは進行してみつかることが多く**がん死亡の第1位**です。

③ **高齢、男性、喫煙者**で多くなっています。

④ 最近では喫煙以外の患者様も多くその原因となる**遺伝子異常**も分かってきた。

※腺がんの一種で、EGFR がんというものがあり、これはタバコを吸わない若い人にも起こる癌とのことです。

2. 気にかきたい症状・検査のすすめ方

① **中心型**は、**症状出現で発見**される場合が多く、**末梢型**は、**検診で発見**されることが多いです。

※中心型の主な症状は、咳、痰、血痰、喘息症状、息切れ、呼吸困難。

気づきにくい症状としては、声のかすれ、飲み込みにくさ、胸の痛み、右肩の痛み、顔や手の腫れなどがあります。

② 咳が2週間以上持続する場合は、是非、**胸部 X 線検査**をうけましょう。咳が1か月以上持続する場合は、主治医と相談して、**胸部 CT 検査**が必要か検討してもらいましょう。

※疑わしいと判断されたら、気管支鏡(気管支にカメラを入れます)、CTガイド下肺生検で細胞をとり細胞の種類を確認して、治療方針を決めます(細胞の種類によって、病気の進行の速さが異なったり、治療方法が変わったりするのです)。

③ ヘビースモーカーの方では、喀痰検査も有用です。

※なかなかタバコをやめられない人は、レントゲン写真だけではなく痰の精密検査を受けましょう！

3. 治療法について

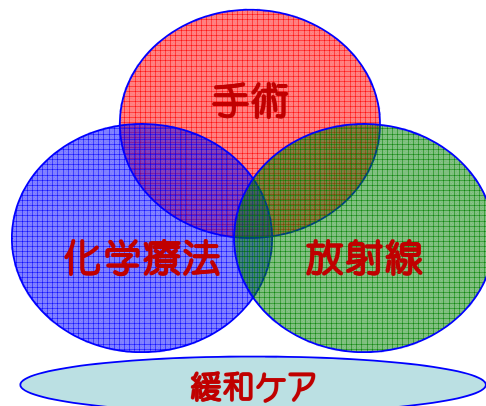
① 治療の4本柱：手術、放射線、化学療法、緩和療法

② 局所療法と全身療法

・局所療法(手術・放射線)：主に早期の患者様で適応

・全身療法(化学療法)：主に進行期の患者様で適応

肺がん治療の4本柱



治療方針の基本

- ・ I 期：病気が局所に留まっている
→ 手術・放射線療法(局所療法)
- ・ II, III 期：
病気が局所に留まっているようにみえるが、
小さな転移が全身に広がっている
→ 手術 または 放射線療法 + 化学療法
- ・ IV 期：病気が全身に広がっている
→ 化学療法(全身療法)
- ・ 体力が低下している
→ 緩和療法

分子標的治療

③ 近年、有効な制吐剤の開発などにより、化学療法の副作用が大幅に軽減しています。

※抗がん剤は、従来から吐き気がでたり髪の毛が抜けるなどの副作用が多いとされてきましたが、最近は吐き気はかなり少なくなってきたとのことでした。

④ 分子標的治療薬の登場により、一部の適応者では、高い治療効果が期待されるようになってきました。

- ・ がんの発生、増殖、転移など、がん細胞で特に目立ったはたらきをする分子(蛋白質や遺伝子)を制御することにより、がん細胞のがんとしての性質を抑えようとする治療法。
- ・ 副作用を抑えながら、一般の抗がん剤よりも効率よくがんを攻撃できる特徴をもっている。

4. まとめ 予防と早期発見について

① 予防としては、禁煙が最も重要です。受動喫煙でも肺がん罹患のリスクは増加します。

→ ご家族のためにも、禁煙を！！

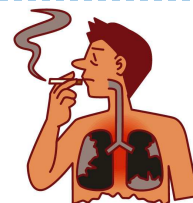
② 早期発見としては、検診が重要です。毎年受診することでより早期に発見されやすくなります。

③ 長引く咳、血痰、体重減少などの症状がみられる場合は、早めに医療機関で診てもらう必要があります。

※先生も、タバコをやめられない人にはチャンピックス(保険適応の禁煙補助薬)を勧めていました。

お困りの方は、気軽に産業医・保健師にご相談下さい。

④ 新しい抗がん剤や制吐剤の導入、分子標的剤の出現により、進行期の治療も進歩がみられています。



古堅先生は国立がんセンターで標準的な肺がん治療について研修を受けてきており、今後沖縄の肺がん治療の中心として活躍されていくと思います。先生の講話の内容を参考に、肺がんになりにくい生活習慣、そして必要な定期検査を受けるように取り組んでいきましょう。



お知らせ



第117回 首里城下町クリニック『地域むけ医療講演会』

日時：11月27日(火) 19:00～

テーマ： **お酒と末長く付き合うために**

講師：独立行政法人国立病院機構 琉球病院

副院長 福治 康秀先生 ・ アルコール部門病棟医長 福田 貴博先生

その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック「働く人健康支援室」は、

あなたの **相談窓口** です！

相談窓口

産業医は、あなたの職場と職場で働く方々の心とからだの健康を支援します。

★産業医・保健師による事業所訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では保健師による健康相談を行っています。どなたでもどうぞ！事業所訪問などで不在の事もありますので、お電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。

事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお話ください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



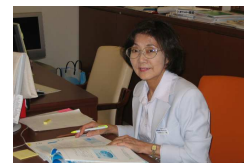
産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅



保健師・産業カウンセラー
認定産業看護師 **田名彩子**



保健師
又吉雅代



認定産業看護師
山城愛子

連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 070-5814-0065 (田名彩子)

メール saiko@biscuit.ocn.ne.jp

プライバシーは守ります。

お気軽にご利用下さい！